

'12 春

初日：鳥取～大山口 85km

<親故に>

4月25日(水)

ジャーニーランは、本来ならば月曜日から始めるのだが、2日延期した。福岡市にいる長男が、仕事や生活のことで悩みを抱え込んでしまい、その解決に駆け付けていたからだ。スッキリとはいかないが、ある程度の策は施せた。うまくいくことを祈りたい。

家族にトラブルが起きた時、それを放っておいて何かをするということはない。家族をないがしろにするくらいなら、人生は捨てる。家庭を大切にしない男に、まともなことができるはずがないのだ。

という訳で、出発日を2日遅らせルートは大幅に変えた。電車で鳥取まで行き、米子まで走って、昨春抜かした所(浜田～大田 60km)をカバーすることにした。

鳥取～米子間は約100kmある。今日は目標を決めず、行ける所まで行く。長男のこのことを頭に入れ、一日だけ感傷に浸る。蛍光タスキの裏側に、ボールペンでその名を綴った。

届くものなら、私の思いとパワーを伝えたい。こういう形でしか元気づけてあげられないが、たまには父親らしいことをさせてくれ。「よし、見ているよ。ちゃんと走るからな」、と意気込んで鳥取を後にした。

親ばかと言われてもいい。私は、ジャーニーランナーであるまえに、唯の親でありたい。

久しぶりに、気合いの入ったランとなる。いつ以来だろう、これほど気に入るのは。「あんたも好きね」の八代～熊本港傘差し走と、「ワイルドで行こう」の下関～長門爆走くらいなものか。あまり力むと、後が続かないからな。

10km程で海岸に出て、白兎神社を通過した。「因幡の白兎」伝説発祥の地だ。こんな所にあろうとはつゆ知らず。どこも、来てみないと分らんものである。

20km地点の分かれ道は、山陰道へ行く方を選んだ。1500mの長尾トンネルを抜けて、青谷駅を目指す。歩道が広くて良好だからだ。

と、ここの上りでサプライズ到来。佐伯市のS運輸の11t車が、追い越していったのである。練習コース途中にある会社で、桜色の下地に群青色で社名が描かれている。イカす(古くない?)配色だ。大分ナンバーだから、間違いなからう。

出くわしに虚をつかれ、ボウっとしている間に去ってしまった。我に返り、センターラインに躍り出て、「オーイ、オーイ」と手を振るが、トラックは200m彼方だ。気づいてもらっても、浮浪者としか思われないうらう。まっ、良かったか。

青谷駅前を通過し、気分の良い海岸線をスタコラサッサと稼いで、羽合町に至った。あの、トリンドルの出身地、ハワイ町だ。デビュー当時、「とっとりのハワイ!」が印象的だった。糸電話だけは、いただけなかったが。

ここで一計浮かぶ。HAWAIIという標識を写メで送り、いかにも「俺はハワイに来ちよる

んじゃ」と匂わず。誰か引っ掛るやろうか。楽しみ、楽しみ、ヒッヒッヒッ。

妻、長男、長女、クリアー。異口同音に、「アー、トリンドルのハワイやな」。塾生数人にも送るが、なかなか引っ掛らない。あと一人、こいつだけは90%の確立で、という子だ。

夕方近く、ヒッヒッヒ! 来たぜ、来ましたぜ。「ジャーニーランに行っちよるんじゃねえんなあ。うちらを置いて、一人でハワイに行くなんち許さん」とすげえ剣幕だ。

「やっぱあ、お前か。地図を開いて、鳥取県のハワイ町を探してみ。トリンドルくらいは知っちよるじゃろうが」、「トリンドル? そんなん知らん。鳥取県てどこな、東北???

」ウーム。地理音痴、方向音痴にも程がある。帰ったら、地理の勉強もさせなくては。

この子は、高校2年生女子で、陸上部のマネジャーをやっている。面倒見が良いと言うよりも世話好きで、Yピクというニックネームだ。私と余程ウマが合うのか、ジャーニー中は毎日応援メールを送ってくるのである。「今日はどうよ。ちゃんと走れたん?」とか「バテたらいつでも担ぎに行っちゃるけえな」とか「しっかり食べて眠らないけんよ」とかだ。完全に上から目線、しかも、ハートマークが20個も付けてある。もうタジタジだ。妻でも、ここまではやらん。

とにかく、ユニークな子で、思考回路がぶっ飛んでいる。時々、私にも彼女の考えていることが解らなくなるが、このメールには、失笑するやら元気づけられるやらで、本当にありがたい。キチッと指導し、志望大学に合格させるのが一番のお返しか。頑張らないかん。

時間を前後させたが、羽合町通過後、御来屋(みくりや)まで真直ぐ道、35kmほどの道のりだった。砂丘続きで、歩道は砂で覆われている。いたる所に「飛砂注意!」という看板が立っていた。冬には、何も遮るものがなくてさぞかし厳しいのだろうが、私の脚も砂にとられて怪しくなってきた。

80km 付近、御来屋駅前で、ついに脚が止まる。14:00 だ。通常ならここで止めるのだが、思いを込めたラン故、あと二駅粘りたい。終点を6km 先の大山口駅に定め、再スタートした。15:41 の列車がある。余裕だろう。

だが、私はここで選択を誤った。大山口駅は、国道から1km 奥にあるのに加えて、駅舎が大山に向かって開いているのだ。海側ではない。名前から判断すれば分りそうなものだが。

そんなこととはつゆ知らず、駅前道にしては狭いなと感じつつ、海側から近づいた。ありゃ! 入口がない。駅舎は反対側にある。フェンスが張り巡らされており、侵入不可能じゃありませんか。踏切もないし、来た道を戻り、高架橋を越えて向う側に出なきゃならん。時間が少なくなってきた。アカンぞ、これは。

こういう時の慌てふためき様は、傍から見たら滑稽だろう。算を乱してかっ飛んで行く。どこに、そんな力が残っているのか。

5分前に、駅に滑り込んだ。膝に手をつき、ゼエゼエ、はあはあ。待合室の女子高校生が、「このおっさん、大山にでも登って来たんやろか?」てな顔で見る。「違うわい。こんな恰好で登山するか。そげえジロジロ見んなよ」と言ってやりたかった。

間をおかず入って来た列車に飛び乗り、20分で米子に着く。こいつに乗り損なったら、次は17:12だ。危ないところだった。

最後はドタバタしたが、いいランだった。胸の悶えが取れた感じがする。

思いが届くなんて、物理的には無理だが、自分の中で納得できれば、届くと信じたい。親として、我が子にしてあげられること、親でなければできないこと。私の場合は、ジャーニーしかない。私の行為を少しでも支えとってくれるなら、どこへでも行く。

さて、米子だ。さあ、リベンジにやって来たぜ、韓国創作料理の店「カムサ」様。昨春は満員で入れなかった悔しい思い出。落胆して、ありきたりの店に入ったのを覚えている。旅の間、少なくとも一回は焼肉屋に立ち寄りたい。それが韓国風なら、見逃せないのだ。

「今日は空いていろよな、頼む! 」と入店したところ、5席のカウンターだけが空いていた。やれやれ、一年越しだど。店内は広く、居心地が良さそうだった。やばいシチュエーションですな、これは。

洗濯中にホテルの向かい側の居酒屋で、駆け付け生大2杯をやって来たから、喉の潤いは完ぺきだ。いきなりマッコリ(1.5lの徳利)から行った。酸味が効いて爽やかな喉越し。これは、ヤバイどころではないぞ。肴も、キムチ、ナムル、チャンジャ、生センマイ、チヂミ等、いずれも創作的で抜群だった。もう、お手上げでござる。

カウンターには私しかおらず、係の青年と二言三言ことばの遣り取りをしていたところ、手が空いたのだろうか、マスターが挨拶にやって来た。40歳台中頃か?若い。

店には芋焼酎も置いていて、仕入に、車で福岡まで出かけると言う。私が九州の人間だと分ると、即、「イモ」の話になった。酒類卸屋の社長さんまで呼んで来て、盛り上がってしまった。「俺は、イモ大使じゃねえぞ」と思いつつも、「九州はいいですね。うまい焼酎があって」などと褒められれば、満更でもない。お調子者め、それほど「通」でもなくせに。

マッコリを半徳利(もう一本は多過ぎと言うと、マスターが半分にしてくれた)を追加し、滞在時間を延ばした。18:00~21:00まで、3時間もおじゃまさせてもらった。楽し!米子。

ジャーニー終了日や長岡氏と連ジャーニーの時以外、3時間も酒場にいることはない。今日が、それだけ大切な旅だったということだろう。体が、自然に覚え込んでいたに違いあるまい。でも、これくらいではコリンズにはならんのだね。二日酔なんてなーらんど。

【 伯耆大山 】



